

感染リスクを軽減させた競技会運営ガイドンス

2020.6.22現在

想定場面	対策、検討事項	対 応
<p>【準備段階】</p> <p>プログラム編成会議を集合して行わない</p> <p>↓</p> <p>不可能であれば集合だが人数、時間を短縮</p> <p>(不正確になりがちであり、極力配慮をして実施する)</p>	<p>作業分担が可能か(作業資料の事前配布と作業データの集約・検討)</p> <p>申込締切を早める必要あるか?</p> <p>招集～競技において待機場所拡大や時間差設定等による競技時間の見直し必要</p> <p>競技者の座る向きを同一にし、座席を離す。タイムテーブル上の招集時刻に組数で配慮する</p> <p>中長距離における1組の人数制限の検討</p> <p>待機場所、競技時間増加による参加制限の検討</p> <p>表彰式実施の有無を検討</p> <p>感染防止対策の役員配置を検討</p> <p>スタンドやチーム待機場所の使用方法を制限するか検討</p> <p>発熱等体調不良の場合に欠場しやすいように参加料返金するか検討(条件など)</p> <p>共用する物品、用具を削減できるか検討(費用も)</p> <p>「競技会開催の基本情報と前提条件の確認【提出用チェックリスト】」の提出</p>	<p>効率化に申込形式厳守が不可欠</p> <p>しっかりした申込であれば、不要</p> <p>当然そうすべき</p> <p>→12名程度を基本とする。</p> <p>要項により高く設定した数値(前回の3位相当)を明示</p> <p>蜜を防ぐために実施しない、省略することを事前に周知しておけばいい</p> <p>マーシャルを入場口に配置し、入場前の消毒などを行う</p> <p>注意事項に集団応援禁止を示すこと</p> <p>棄権(返金不可)</p> <p>投てき器具やベンチ等、共用品を毎回対応 一使用後の消毒を重点的に</p> <p>別添チェックリストを秋田陸協へ提出</p>
<p>【招集所】</p>	<p>種目毎に場所を設定(トラック、フィールドなど複数場所に分割)</p> <p>対面での会話、集団を作った説明はできるだけ避ける</p> <p>一次招集は掲示名簿にマーク(場所の拡大)</p> <p>一次招集名簿に朝の体温記載してもらう</p> <p>「【大会前/提出用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート」の提出</p> <p>二次招集は待機場所の拡大と時間差必要</p> <p>体温計の準備(非接触型がベター)⇒アップ後は無意味?</p> <p>指示事項掲示物を準備</p> <p>集団で競技場所誘導は行わない(集合場所を明示必要)</p> <p>現状では、招集テントを多く設置し、密の状態を極力避ける配慮しかないと思う(競技会なので)</p>	<p>なるべく分けて設置</p> <p>事前に掲示等で簡略化を図る</p> <p>チェックの際、密集しないで役員がチェックし易く</p> <p>現地は無し、事前にしてもらうことを要項に明記。朝の内に大会本部に別添チェックシートを提出</p> <p>ビブス確認簡略化、集合時刻は参加規模では組別に設定</p> <p>不要</p> <p>最低限度伝えるべき事を1次招集の際、掲示する(口頭説明しない)</p> <p>競技会では現地集合は不可！間隔あけて</p>
<p>【競技場所(トラックスタート地点)】</p>	<p>待機場所の拡大(競技者間隔の拡大)</p> <p>組間の時間差拡大</p> <p>中長距離の1組人数を絞る</p> <p>腰ゼッケン、特別アスリートビブスを専用にする(共用を避ける)</p> <p>長距離種目のフィニッシュ後の救護について、特に感染予防を役員も講じること(ゴム手袋装着)</p>	<p>極力間隔をあげる努力して設置する</p> <p>進行上、可能な範囲で(招集時刻とリンクさせて)あける</p> <p>極力人数を12名以下(1000m、1500m)。ただし、3000m、5000m、3000mSC、10000mは18名以下とする</p> <p>準備できればこたことがないが、腰のみ対応可</p>
<p>【競技場所(フィールド)】</p>	<p>待機場所の拡大(競技者間隔の拡大)</p> <p>競技者集合、移動時の安全確保(誘導しないため)</p> <p>試技間の時間差拡大</p> <p>投てき用具の持ち込みを可能な限り認める(使いまわしを避けるため)</p> <p>投てき用具やマット(走高跳・棒高跳)の消毒は必要か</p> <p>競技規則に沿って運営することが大原則なので、それは守る。あとは、その都度状況判断する。</p>	<p>可能な範囲でテント、ベンチを離して設置する</p> <p>基本、誘導はすべき、間隔を開けて移動</p> <p>審判員が試技できる状態にしたら、即旗・コーンでカウントダウン開始する</p> <p>競技役員が消毒する</p> <p>投てき用具はその都度、マットは競技終了後に実施</p>
<p>【チーム待機場所、スタンド】</p>	<p>集団応援禁止の要請及び掲示</p> <p>着座間隔拡大の要請及び掲示</p> <p>競技者以外入場禁止とするか?</p> <p>テントを密閉空間にしない工夫(風よけを付けない、テント内の換気)</p> <p>飲用水は個人で準備し、ボトルやカップ、タオルの共用はさせない</p>	<p>プログラムに趣旨を含め掲載、アナウンスでその都度周知</p> <p>席を1つずつ空けるよう自粛要請する</p> <p>競技者以外は、保護者のみ2名以内とする</p> <p>その旨、事前に周知する</p> <p>チームに事前の徹底を依頼</p>
<p>【競技役員関係】</p>	<p>連絡事項を文書化し集合伝達を回避</p> <p>マスクの着用を原則とする</p> <p>手指消毒薬を準備</p> <p>体温計の準備(非接触型がベター)</p> <p>待機場所、食事場所の座席間隔拡大及び複数化</p> <p>審判員と選手の動線をできる限り分ける</p> <p>感染症が重症化しやすい 65 歳以上の競技役員には、原則として委嘱しないこととする</p> <p>感染症が重症化しやすい基礎疾患(糖尿病、心不全、呼吸器疾患、高血圧、透析を受けている者、免疫抑制剤や抗がん剤等を用いている方等)を持っている者には委嘱の連絡の際、辞退するよう促す</p> <p>「【大会前/提出用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート」の提出</p>	<p>主任会議のみ、その後の部署でも最低限に抑えること</p> <p>各自、持参原則。※マスク熱中症予防にも留意し、こまめに水分等を摂取させること</p> <p>アルコールや液体石鹸を準備、配置する</p> <p>役員受付で手帳提出時に、非接触型機で検温確認する</p> <p>可能な限り、広いスペースを取るよう各自で努力する</p> <p>可能な範囲で審判員と競技者の動線は分離し、役員に事前周知する</p> <p>→日本陸連の指導にしたがうこと</p> <p>→日本陸連の指導にしたがうこと</p> <p>大会1週間前からの体調をチェックさせ、当日の受付時に提出させる</p>
<p>競技会時の必要資材例</p>	<p>待機場所拡大分のテント、椅子(招集所、待機場所 他)</p> <p>⇒これまでの1.5～2倍は必要では?</p> <p>体温計(非接触型)競技者用、役員用(複数台)</p> <p>手指消毒薬(招集所、役員受付、食事場所、待機場所 等)</p> <p>対面場所のガード用具(アクリル板、透明シート等)</p> <p>物品等消毒薬、用具(手袋、スプレー、ペーパータオル等)</p> <p>マスク(競技役員人数分 100%でなくとも)</p> <p>指示事項記載用紙(大判で作成必要)またはホワイトボードなど</p> <p>基本的には、全て大会規模と予算で左右される部分なので、予算に応じ大会規模縮小も検討する</p>	<p>参加者数に応じて検討するが、可能な限りとする。参加者を減らせれば増やす必要はない</p> <p>競技者用は、事前用は不要(熱中症等に使用)競技場で使用するのとは心配な者に限る</p> <p>極力準備する(予算に限度) →本数、分量は要検討</p> <p>予算によりけり、可能な範囲準備</p> <p>投てき器具にアルコール除菌布程度 →本数、分量は要検討</p> <p>基本的に競技役員は持参原則、忘れてたり損壊に対応</p> <p>準備できればこたことはない</p>
<p>【競技会終了後】</p>	<p>「【大会後/個人管理用】新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシート」の配付</p>	<p>競技会に関わった全ての人(審判員、競技者、コーチ等)に大会後2週間の体調をチェックさせる。ただし、症状が4日以上続く場合は、主催者に必ず報告すること</p>